

朝のこない夜はない

山首 鈴木正修



眠れる預言者

退行催眠（前世療法）によって前世を知ること、
現在抱えている悩みや苦しみの原因が明らかになり、
その解消につながるということを先月号で紹介しました。

今回は前世療法の本家本元とも言える人物、エドガー・ケイシーを紹介します。

エドガー・ケイシーはケンタッキー州の貧しい農家に生まれました。21歳の時に喉頭炎になって声が出なくなりしました。その時にレインという催眠術師に催眠術をかけてもらい、喉頭炎が治りました。それから不思議なことが起きました。ケイシーが催眠状態に入っ



ている時に病人のことを聞かれると、その病人の肉体
の状況を透視し、その原因と治療法を明らかにするこ
とができるようになったのです。人はいつしかケイシ
ーのことを「眠れる預言者」と呼ぶようになりました。
この肉体を透視することをフィジカル・リーディング
と言います。

一つ有名な話を紹介します。

アラバマ州セルマのある少女が精神錯乱状態になり、
精神病院に入れられました。どうにかして治したいと
思った両親がケイシーのところに相談にきました。ケ
イシーはいつものように横になって催眠状態に入りま
した。両親が少女の名前を言って「精神の状態がおか
しいです」と相談すると、ケイシーは透視をして「こ
の女の子の歯茎に親知らずが一本食い込んでいる。そ



れが脳神経を侵している。この歯を抜けば、この子はすぐに正常に戻る」と言いました。その後、歯を抜くとすぐに少女は正常な状態に戻ったということです。

また遠隔透視もできたといえます。ケイシーは国内はもちろん、アメリカにしながら、国外にいる人のことも透視できたそうです。例えば対象が私だったとすると、「鈴木さん、今日そちらは風が強いですね」とか、「あなたの横には誰々がいて、あなたの病いが治ることを祈っていますね」などと言いついて当たっています。それによってケイシーの透視の真実性が増したということです。

このようなケイシーの透視能力が次第に知られるようになって、金儲けに利用しようという者が現れてきました。ある時、「競馬の勝馬を教えてください」と依頼



する人がいました。これは成功もするけれど、失敗もするという結果でした。普通の予想屋と変わらない程度でした。そういう時は催眠状態から目覚めた時にとても疲れていたそうです。エネルギーを消耗して、とても不快感が残ったそうです。

また「テキサスで石油事業をやらないか」という話もありました。「油田のありかを透視してくれ」というのです。これは全く良い結果を得られませんでした。結果的にケイシーはこういう透視をすると、不確かであると同時に、すごく疲れることがわかりました。自分の能力は人を助ける時にだけ、確実に信頼するに足る。金儲けを目的とした時には力を発揮しない」と実感したといっています。



【前世の発見】

ケイシーが初めてライフ・リーディング（前世透視）を行ったのは、全くの偶然によるものでした。依頼者のホロスコープ（個人の誕生時の天体配置図で占星術のもとになるもの）を読みとるための透視を行っていたときに、その状況に遭遇したのです。1923年11月11日、ケイシーの故郷であるオハイオ州デイトンで、それは行われました。依頼者は、地元の実業家、アーサー・ラマーズという人物でした。ラマーズはリーディングの最中に「自分は前世で僧侶であった」と語り出したのです。ラマーズの依頼したホロスコープの透視とはかけはなれたものでした。

この時、最も驚いたのはほかならぬケイシー自身でした。というのも、彼は輪廻転生を認めない敬虔なキ



リスト教徒きょうとだったからです。キリスト教きりすとうきょうでは、人は死し後ご、神かみの最後さいごの審判しんぱんを待つまちのみで、生まれ変わるうまれかわること
はないとされているのです。

しかしその後ご、ケイシーが聖書せいしよを詳しく調べたところ、かつては「人間にんげんは生まれ変わるうまれかわる」と記しるされていた
ことが判明はんめいしました。それが、ある宗教会議しゅうきょうかいにおいて
聖書せいしよが改訂かいていされ、その記述きじつが削除さくじよされたそうです。その
理由りゆうは、神かみへの信仰心しんこうしんを強めるためだったそうです。
ケイシーはこの後あと、一気いっきに生まれ変わりを信じしんじ、積極せつぎよく
的にライフ・リーディングてき（前世透視ぜんせとうし）を行うおこなうようになっ
ていきます。

ケイシーは自らの前世ぜんせを透視とうしした際さい、古代ペルシャ
時代に「ユートル」という部族ぶぞくの族長ぞくちやうであったことを
知りました。その時の彼かれは有能な霊能者れいのうしやであり、複數ふくすう



の病院びょういんを建てたるなどの活動かつどうを行おこなっていたといいます。
その時ときの人格じんかくが現在げんざいの彼かれに強つよく影響えいきやうを与あたえていること
がわかりました。

【死後しごの世界せかいの存在そんざい】

自分自身じぶんじしんの前ぜん世せを見みたケイシーですが、それでも彼かれ
は、魂たましいが死しんだあとも本ほん当とうに存そん続ぞくするのたしかを確たしかめて
みたいと考かんえて、ある日ひ、ウエスタン・ユニオン電報でんぽう
電話局でんわきょくを經けい営えいする実業家じつぎやうかであり友人ゆうじんでもあるM・B・
ワイリックにこかう語かたりました。

「どちらか先さきに死しんだ方ほうが、あの世よから必かならず連れん絡らくを取と
るようになししよう」

ケイシーにとっては冗談じやうだん半はん分ぶんの提てい案あんでしたが、その
後ご、ワイリックが先さきに亡なくなりました。



そんなことも、すっかり忘れてしまったある日、ケイシーは自宅の居間でラジオを聞いていました。すると、何となく部屋の中に誰かがいるような感じがしました。ふとラジオに目をやると、ラジオの前に男が座っているように見えました。その男は数年前に死んだ友人のワイリックだったのです。ワイリックは微笑みながら、「人格はやはり続くんだよ」と言いました。ケイシーはしばらくの間、椅子に座ったまま動けなくなりしましたが、やっとのことで椅子から立ち上がり、ラジオを消して逃げるように妻のいる2階のベッドルームへ行きました。ケイシーの妻が「ラジオを消してこなかったの？」と言いました。それでケイシーは、今も階下から聞こえてくるワイリックの声が妻にも聞こえているのだとわかりました。自分だけの幻覚や幻



聴^{ちやう}などではなかったのです。最後^{さいご}にワイリックがケイ
シーに告^つげました。

「これでわかっただろう。死^し後の世^せ界^{かい}はあるんだよ」
この出来事^{できごと}を通^{つう}じて、ケイシーは死^し後^ごも人^{にん}間^{げん}の魂^{たましい}が
存在^{そんざい}し続^{つづ}けることを確^{かく}信^{しん}したといいます。

【ライフ・リーディングの事例^{じれい}】

ケイシーのライフ・リーディングを受^うけた人^{ひと}は、約^{やく}
2500人^{にん}にのぼるといわれています。さまざま^じな事^{こと}
例^{れい}がありますが、今^{こん}回^{かい}はそのいくつかを紹^{しょう}介^{かい}します。

ある生^うまれつき目^めの見^みえない大^{だい}学^{がく}教^{きょう}授^{じゆ}がライフ・リ
ーディングを受^うけたところ、紀^き元^{げん}前^{ぜん}1000年^{ねん}頃^{ころ}のペ
ルシャにおいて、赤^{あか}く焼^やけた鰐^{こて}で敵^{てき}の目^めを潰^{つぶ}す部^ぶ族^{ぞく}の
一^{いち}員^{いん}だったことが透^{とう}視^しされました。この行^{こう}為^いがカルマ



(因果)となり、今世で彼の視力を奪ったのかもしれない、ということです。

法音寺の始祖・杉山辰子先生も、これに似たことを語られたことがあります。ある時期、杉山先生は視力を失われましたが、こうおっしゃいました。

「これは過去世、私が武士だった時代に、弓で人の目を射抜いたことがある。その因果によって、私はある時期から目が見えなくなる。しかし、私は功德によって、その因果を消滅させ、また見えるようになるから、心配にはおよびません」

また、ニューヨークで手のモデルとして活躍している女性がライフ・リーディングを受けたところ、彼女



は過去世かこせにおいて修道女しやうどうじよであり、その時とき、人ひとが嫌いやがる
ような手てを汚けがすような仕事しごとを率先そつせんして行おこなっていたこと
がわかりました。その善よきカルマの結果けっかとして、彼女かのじよ
は美うつくしい手てを持ち、手てのモデルとして成功せいこうをおさめて
いたのだそうです。

ケイシーによると、ある一生いっしやうで努力どりよくして修得しやうとくしたも
のは、決して無駄むだにはならないといひます。また幼少ようしやう
期きから天才てんさい的な技量ぎりやうを發揮はつきする人ひとがいるのは、過去世かこせ
の積つみ重ねかざによるものだというのです。

たとえば、モーツアルトです。なんと5歳さいの時ときにピ
アノ協奏曲きやうそうきよくを作曲さつきよくしたといひます。

19世紀せいの天才てんさい数学者すうがくしやガウスは、2歳さいの時ときに父親ちちおやが従
業員ぎやういんの給与計算きやうよけいをしていひるのを見て、「お父さん、間ま



違^{ちが}っているよ」と指摘^{してき}したと伝え^{つた}られています。これらはそのよい例^{れい}だと思^{おも}います。

また、こんな話^{はな}もあります。アメリカ・ロサンゼルスに住^すむ6歳^{さい}の少年^{しょうねん}レイモンド君^{くん}は、それまでピアノに触^ふれたことがなかったにもかかわらず、突然^{とつぜん}流麗^{りゅうれい}なジャズのメロディーを弾^ひき始め^{はじ}めました。驚^{おどろ}いた父親^{ちちおや}が「どうしたんだ?」と尋ね^{たず}ねると、レイモンド君^{くん}は「指^{ゆび}が自然^{しぜん}に動^{うご}くんだ」と答^{こた}えたそうです。それから、レイモンド君^{くん}は一日^{いちにち}五時間^{ごかん}ピアノを弾^ひき続^{つづ}けました。それが次第^{しだい}に個性^{こせい}的なジャズの演奏^{えんそう}スタイルになつていったのです。ジャズに詳^{くわ}しい人^{ひと}がその演奏^{えんそう}を聴^きいて、「これは1943年に39歳^{さい}で亡^なくなったファッツ・ウオーラーの弾^ひき方^{かた}だ。いや、もう、ファッツ・ウオーラーそのものだ」と言^いいました。こうして、「この子^こ



はファッツ・ウォラーの生まれ変わりなのでは」と
言われ、アメリカ中の人気者となったのです。

ちなみに、ファッツ・ウォラーが亡くなったのは
1943年。レイモンド君がピアノを弾き始めたのは
1971年でした。レイモンド君の父親はこの出来事
を本にまとめ、後にそれが映画化されました。

【ソウルメイトと魂のつながり】

ケイシーの話には、ほかにさまざまな興味深い話
があります。その中の一つに「ソウルメイト」という
概念があります。

ソウルメイトとは、魂の深いつながりを持つ伴侶や
仲間のことを指します。つまり、魂同士に強い絆があ
るということです。伴侶であれば俗に言う「赤い糸」



で結むすばれているということ。中なかには、5人、10人、20人といった魂たましいのグループがあり、ある時代じだいに、そして次つぎの時代じだいにも、共に生まれ変わる人達ひとたちがいるといいます。

こうした魂たましいのグループは、カルマ（因果いんが）の問題もんだいをともに解決かいけつする仲間なかまであり、同じ目的もくてきを持って生まれ、それぞれの役目やくめを果たはすために転生てんしょうしてくるのだそうです。

法華経ほけきょうを信じ実行じっこうする法友ほうゆうは、ソウルメイトの関係かんけいと言いえるかもしれません。

【輪廻りんねからの解脱げだつと選択せんたく権けん】

ケイシーがライフ・リーディングを施ほどこした約やく2500人のうち、18人には大いなる存在そんざいから、自らみずかが望のぞま



ない限り、もう地球に生まれ変わる必要はない。という選択権が与えられていたといえます。つまり、輪廻の輪から解脱している人々です。

ケイシーのライフ・リーディングの記録はすべて現在も残されており、その18人は「不要なる転生」という項目に分類されています。彼らには、以下の三つの共通点があるとされています。

一つ目は、特別な聖人ではなく、ごく普通の人であること。

今世で与えられた課題を真摯に受け止め、それに全身全霊で向き合っている人々です。困難から逃げず、誠実に問題を取り組む姿勢が特徴です。

二つ目は、職業を通して自己を磨き、社会に貢献していること。



職業意識や技術を高めることで自己成長を遂げ、さらにその働きによって周囲の人々を幸せにしています。医師、技術者、教育者など職業はさまざまですが、いずれも自らの仕事を通じて社会貢献をしているのです。三つ目は、奉仕の精神を持っていること。これが最も重要な共通点です。

法華經的に言えば、常に菩薩行を実践している人です。人の幸せのために尽くすことを第一に考え、利己的な欲望や興味をすべて捨て去っているのです。

これらのことが、地球への再生を必要としないと考えた18人に共通していたのです。

またケイシーは次のように語っています。

「18人は、地上に戻らなくてもよい」と言われている。



しかし、もう戻ることはない。とは言われていない。
地上の人々の力になりたいと願う者は、再び戻ってもよいということなのだ。最終的な選択権は本人に委ねられているのである」

お釈迦さまは、法華經法師品第十において次のように述べておられます。

「葉王、当に知るべし、是の人は自ら清淨の業報を捨てて、我が滅度の後に於て、衆生を愍むが故に惡世に生れて広く此の經を演ぶるなり」

『法華三部經略義』卷三第十章・法師品（144頁）

（葉王菩薩よ、よく知りなさい。この人へ法華經を深く信じ、実践する人）は、清淨なる功德の身を捨てて、



末^{まつ}法^{ぽう}の世^よに生^いきる人^{ひと}々^{びと}を慰^{なぐさ}むが故^{ゆえ}に、とも^{とも}に苦^{くる}しみ、
とも^{とも}に悩^{なや}みながら、多^{おほ}くの人^{ひと}々^{びと}に法^ほ華^け經^{きやう}を弘^{ひろ}めるた
め、敢^あえてこの世^よに生^うまれてくるのだ

日^に蓮^ち聖^{せん}人^{しやうにん}は「地^じ涌^ゆの菩^ぼ薩^{さつ}に非^{あら}れば唱^{とな}えがたき題^{だい}目^{もく}」
とおっしゃっています。今^{いま}、お題^{だい}目^{もく}の信^{しん}仰^{かう}をし、それ
を弘^{ひろ}める人^{ひと}は、ケイシーのライフ・リーディングの18
人^{にん}に勝^{まさ}るとも劣^{おと}らない如^{にやう}來^{らい}の使^し者^{しや}であらうと思^{おも}います。

